

情報共有

(2枚・非管理メモ)

官邸班.NISA班 ← フォレス対応4-4

※ NISA分室お越し済み

H23.5.24②議事メモ.doc Last printed 5/24/2011 11:21:00 PM

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 5 月 24 日 (火) 11:00～11:25

場所：東京電力本館 3 階 A 大会議室

先方：記者約 65 名 (カメラ 5 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて (5月24日午前9時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所、プラント関連パラメータ (5月24日6:00現在)
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水核種分析結果
- ・ 福島第一原子力発電所第3号機取水口付近からの放射性物質を含む水の外部への流出への対応に係る報告に関する経済産業省原子力安全・保安院からの指示文書受領について

質疑：

Q. 2号機熱交換器の設置作業と4号機の使用済燃料プールの支持物設置工事の本日の予定は。

A. 2号機使用済燃料プール代替冷却の熱交換器の設置工事を本日から実施する予定。
4号機使用済燃料プールの支持物設置工事は、原子炉建屋2階の熱交換器室のブロックの片づけや、足場の組み立てを実施予定。

Q. プラントデータ報告書の別紙-1-14の格納容器の水素発生量のグラフで、12日の0時から6時間程度、水素の発生量が落ちているが、この動きをどう評価するのか。

A. 確認させていただく。

Q. プラントデータ報告書の別紙-1-14の格納容器の温度が12日0時頃に上昇し、その後上がって下がる動きを示しているが、この動きをどう評価するのか。

A. 12日0時以降に急激に格納容器の温度が上昇しているのは、炉心の損傷に伴う圧力容器の損傷の影響が出てきているものと推定している。13日の0時少し前から下がり始めている所は海水注入の影響で冷え始めたものと考えている。14日0時頃から上がり始めている点については、確認させていただく。

Q. 今回、報告書を提出して、今後新たな事実が判明した場合、どのように対応するのか。

A. 新たな事実がまとまった段階で報告書を再度まとめ直すことになる。炉心解析は検討の必要あるかと思っている。津波が起こった以降の評価は、この報告書では明らかになっていないので追加事項になると思われる。地震発災から津波まではあまり大きな変更はないと考えている。

Q. 評価を改めてまとめる目途は。

A. まだ決まっていない。

Q. 1号機炉心の状態、16時間、15時間はなぜ。確認するといったが。

A. 整理してお答えさせていただく。

Q. 3号機の消化系の注水量を変更した結果、温度はどのように変化したか。ペローシール部の温度が上がっているようだが。

A. 若干、温度が上がっている箇所もあるが、全体として下がり傾向ということに変わりない。当初200℃を超えていた胴フランジも160～170℃程度で、現在、3m³/hで注水して変化の具合を見ているところ。

Q. ウランとプルトニウムの放出量は。

A. 例えば3号機で言うと、別紙1-60ページに炉内のインベントリを示した二酸化セリウム、すず、テルル、二酸化ウランのグラフがあり、二酸化セリウムとすずはこういった割合で放出されているが、ウランに関しては10⁻⁰¹以下のレベルである。

Q. 外部で検出されたプルトニウムは1号機から放出されたものなのか。

A. どの号機から放出されたかは不明であるが、今回の解析上は、1号機は10⁻¹⁰の範囲だが、2、3号機はこの解析上は出てこない。ウランとプルトニウムが核分裂生成物として出た量としては、1号機は、炉内に存在する量の約1億分の1、2号機3号機については約100億分の1程度である。

Q. 圧力バウンダリ等の主要な設備では地震の影響はないとのことであるが、弁や配管等の強度の弱い箇所に関しても、漏えいはなく地震の影響は全くないと言い切れるのか。

A. 我々が得られている記録計や記録等から主蒸気管破断や格納容器内の原子炉冷却剤喪失事故はないと判断している。しかしながら、記録計に表れない程度の微少漏えいや蒸気の流出は、今の時点では完全に否定できないと思っている。

中操のホワイトボードにも放射性物質の漏れを検知した旨の記載もあるので、どこのエリアでそのようなことがあったかについては現在調査しているところである。

以上